

Landscape Planning and Design of Urado Bay

1045028 Mari Ishikawa

In this article, I plan and design the landscape of the six areas in Urado Bay based on the port plan of Kochi Port revised by Heisei 12 year, and propose feedbacks to the port plan.

The background factors

- The examination to landscape design is seldom made in the port plan in Heisei 12.
- The port functions are transferred to the New Port of Kochi.
- There is little natural coastline.
- The large-scale breakwaters are fixed for countermeasures against calamities.
- People cannot approach to the waterside easily.
- The land uses are complicated. etc.

The concepts

Creation of the beautiful landscape handing down to postelity

- Creation of the space in which symbiosis with people and nature
- Creation of the life space in which using the merit by the sea
- Taking charge of functions
- Construction of roads

The feedbacks to the port plan

- Making an overhead crossing at Usioe area
- Stop conecting Nakanosima and Maruyayadai
- Use as parking lots and warehouses in the bridge's loop
- Change the position of an earthquake-proof berth
- Change the position of the artificial seashore
- Use the dock without reclaiming land etc.

In the economic situation of Japan now, Urado Bay is born again. That is useful to loacal activation. As a result, it will lead also to economic development.

If realization for a short period of time has a good plan even when it is impossible, the landscape design which can be told exceeding the generation will be possible for it. In this article, I propose only six plannings and designs. However, there are still many places which should be improved in Urado Bay. I think that it is necessary to inquire with the harbor refreshment plan which is progressing actually.

key word ; landscape, design, planning, port plan, Urado Bay, Kochi port

修士設計要旨 浦戸湾の景観計画とデザイン

2002年1月
指導教員 重山陽一郎 助教授

社会基盤工学コース 1045028
石川 眞理

本計画とデザインは、平成12年に改訂された高知港港湾計画を基に、浦戸湾の景観計画とデザインを行い、港湾計画へフィードバックするものである。

平成12年の港湾計画では、景観デザインに対する検討があまりなされていないこと、高知新港に機能移転が進みつつあること、防災対策や自然環境の保全に配慮しつつ、人々が自然と共生し、交流が広がる水辺空間を形成することが必要となり、ハーバーリフレッシュ計画が進められていることが、この計画とデザインの背景となっている。

1. 浦戸湾の概要

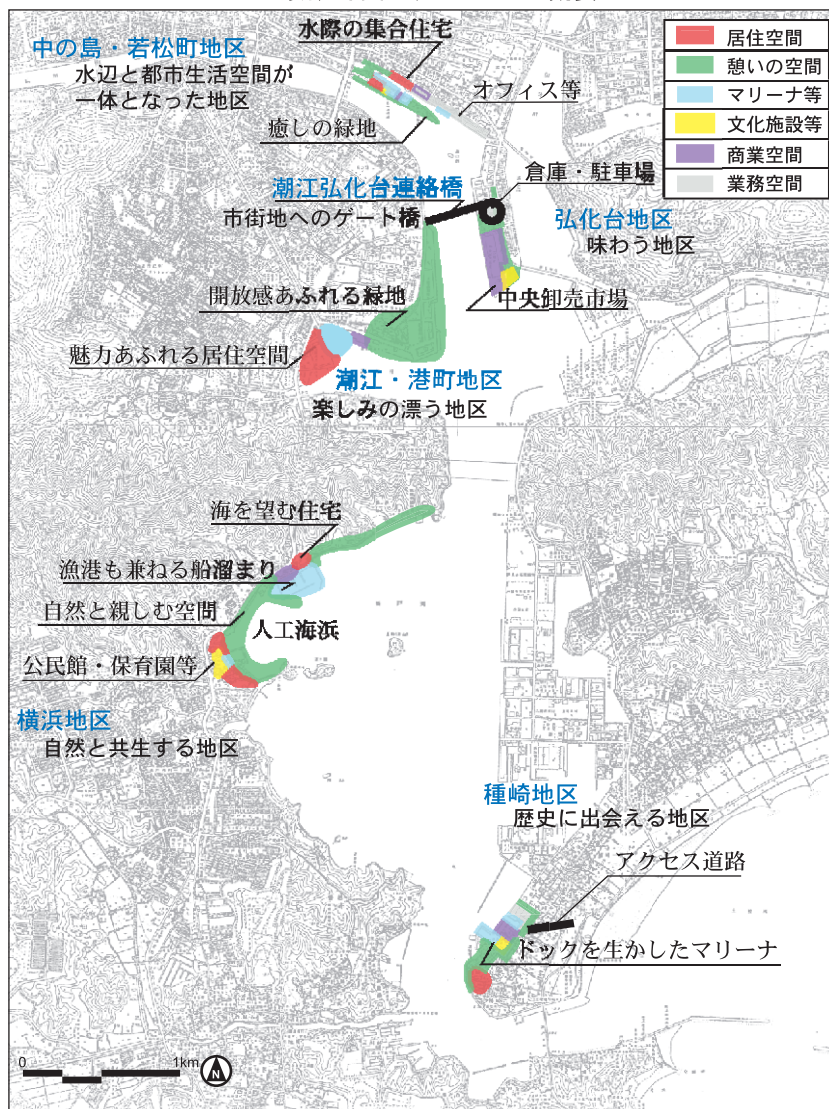
浦戸湾は、高知県の中央部に位置し、高知の海の玄関として古い歴史を持っており、かつては、瓢箪の形をした天然の良港であった。

しかし、現在の浦戸湾は、

- ・大規模な工業用地や埠頭の造成、防災対策のための防潮堤により、人工の海岸線が大部分を占め、自然のままの海岸線は残り少ない。
- ・陸域と水域との遮断は、人を水際から遠ざけ、海への眺望を阻害している。
- ・様々な機能を持つ空間が混在する土地利用の煩雑さは、まとまりのない空間を創りだしている。
- ・潤いや憩いのある空間も不足している。
- ・道路整備が遅れている。

等の課題を抱えている。

景観計画とデザインの概要



2. 基本方針

『県民市民の財産として、次世代に伝えうる美しい景観の創造』
というテーマのもと、以下の基本方針に沿って景観計画とデザインを行う。

- ・海の側というメリットを生かした生活空間を創造する。
- ・人と自然との共生可能な空間を創造する。
- ・土地利用のあり方を考え、機能分担を図る。
- ・都市計画・港湾計画を基に、交通機能の充実を図る。

3. 各地区のデザイン

各地区のコンセプトとデザイン作品を以下に示す。

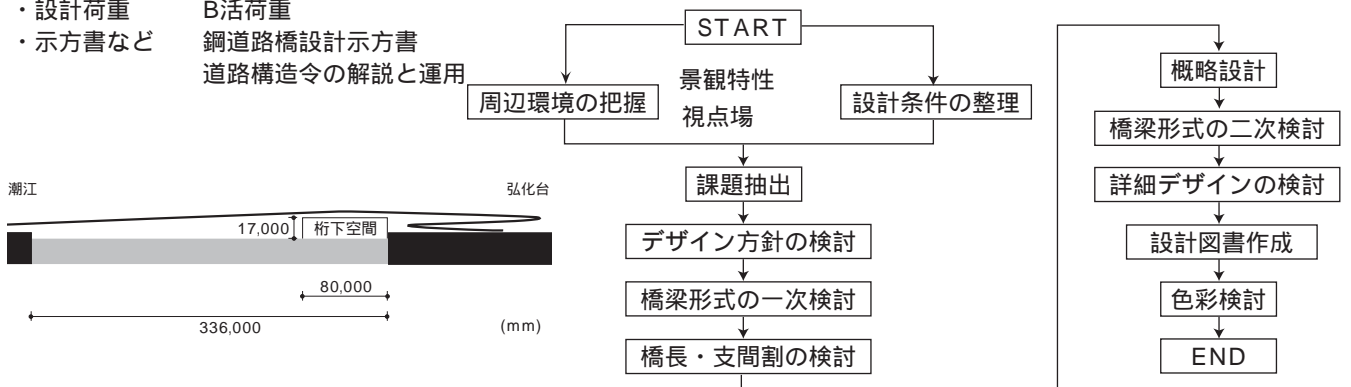
3.1 潮江弘化台連絡橋

3.1.1 設計条件・検討フロー

設計条件

- ・車線 4車線 + 歩道
- ・設計荷重 B活荷重
- ・示方書など 鋼道路橋設計示方書
道路構造令の解説と運用

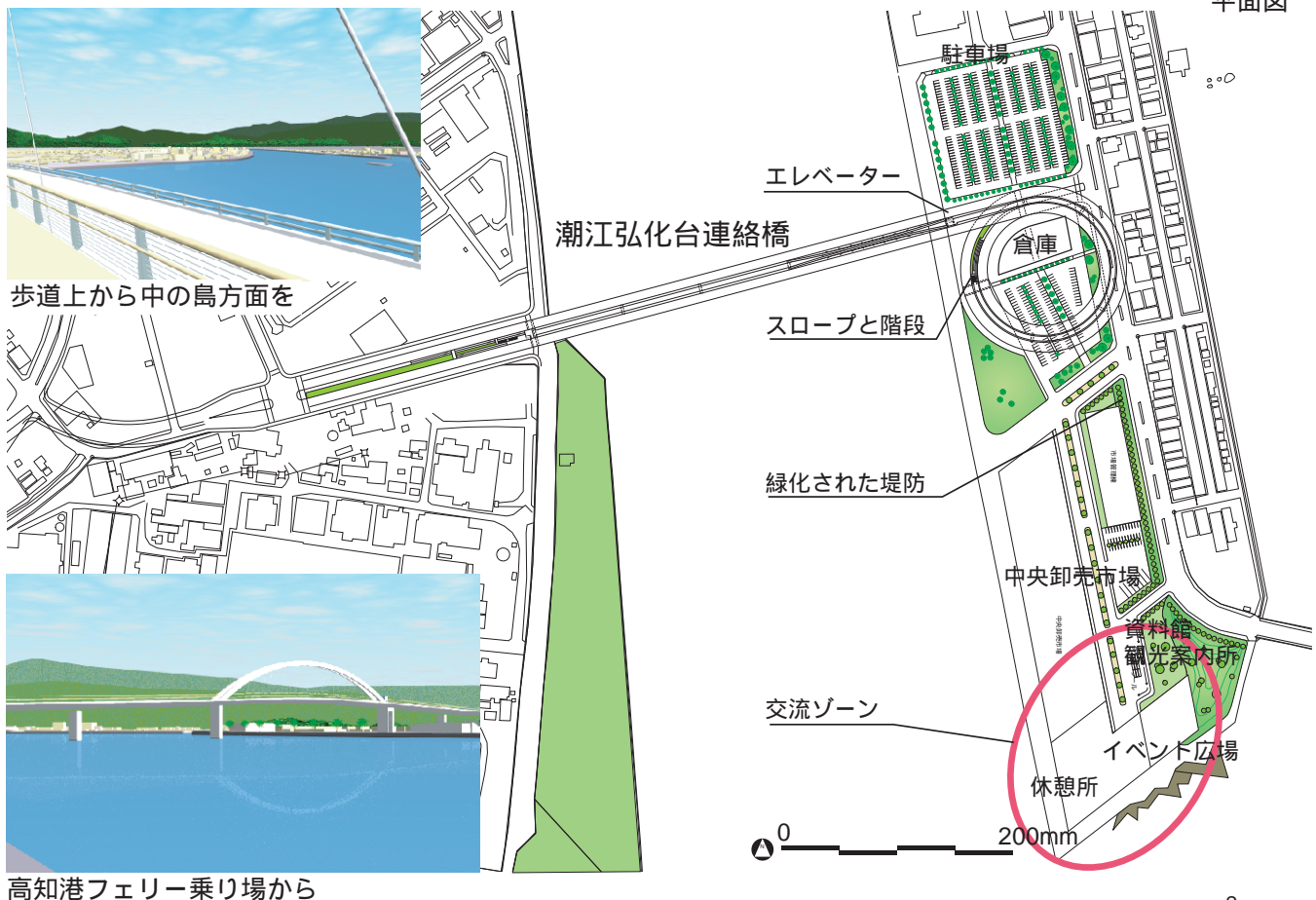
検討フロー図



3.1.2 コンセプト

- ・ランドマークとしての橋 - 県都高知市への入り口としてふさわしい橋
- ・周辺景観と調和する橋
- ・使いやすい橋
- ・浦戸湾を眺める視点場となる橋

3.1.3 デザイン作品

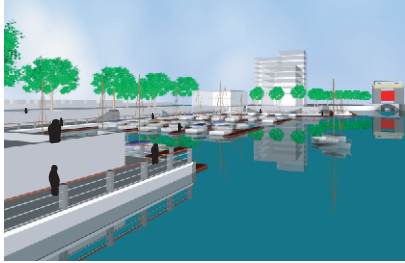


3.2 中の島・若松町地区

3.2.1 コンセプト

- ・橋の視点場となる空間の創造
- ・魅力的な都市機能空間の創造 - 職住近接の空間
- ・賑わいと交流の空間の創造
- ・親水性を有する都市緑地の創造
- ・マリーナを配置する。

3.2.2 デザイン作品



若松町から中の島へ



野外ステージから橋を見る



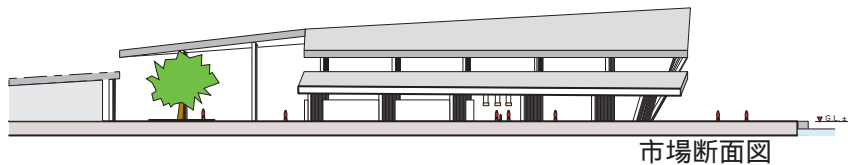
鏡川大橋から

3.3 弘化台地区

3.3.1 コンセプト

- ・橋の視点場となる空間の創造
- ・活気あふれる商業空間の創造 - 市民や観光客にも開放された市場
- ・緑地を伴う親水空間の創造 - 海を間近に安らぎを感じられる空間
- ・高知らしさを感じられる空間の創造 - 市場の建物は、太平洋に向かって開放感を持つ。

3.3.2 デザイン作品



市場断面図



市場南から

3.4 潮江・港町地区

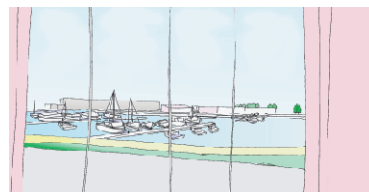
3.4.1 コンセプト

- ・橋の視点場となる空間の創造
- ・市街地からアクセス容易な空間の創造 - 路面電車の終点の変更
- ・交流拠点ゾーンの創造
- ・市民の憩いの場の創造 - 緑豊かな臨海公園としての整備
- ・海と一体感のある居住空間の創造 - 海の側というメリットを生かした空間の創造

3.4.2 デザイン作品



ショッピングセンターから



住宅から



グリーンカフェから

3.5 横浜地区

3.5.1 コンセプト

- ・自然と共存する空間の創造 - 人工海浜の整備
面的防護による防潮堤の天端高の調整
- ・居住空間の充実 - 住宅と機能を集約した公的施設の整備

3.5.2 デザイン作品



ヘリオスから



人工海浜



キャンプ場から

3.6 種崎地区

3.6.1 コンセプト

- ・交流拠点ゾーンの創造 - 地域活性化の核となる場の創出
- ・文化・歴史に親しむ場の創出 - ドッグ形状を生じたマリナーの創造
- ・親水空間の創造 - 水際線や防潮堤の工夫

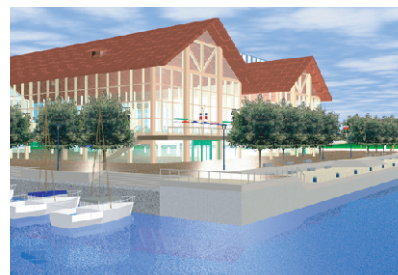
3.6.2 デザイン作品



鳥瞰パース



ドッグ跡マリナー

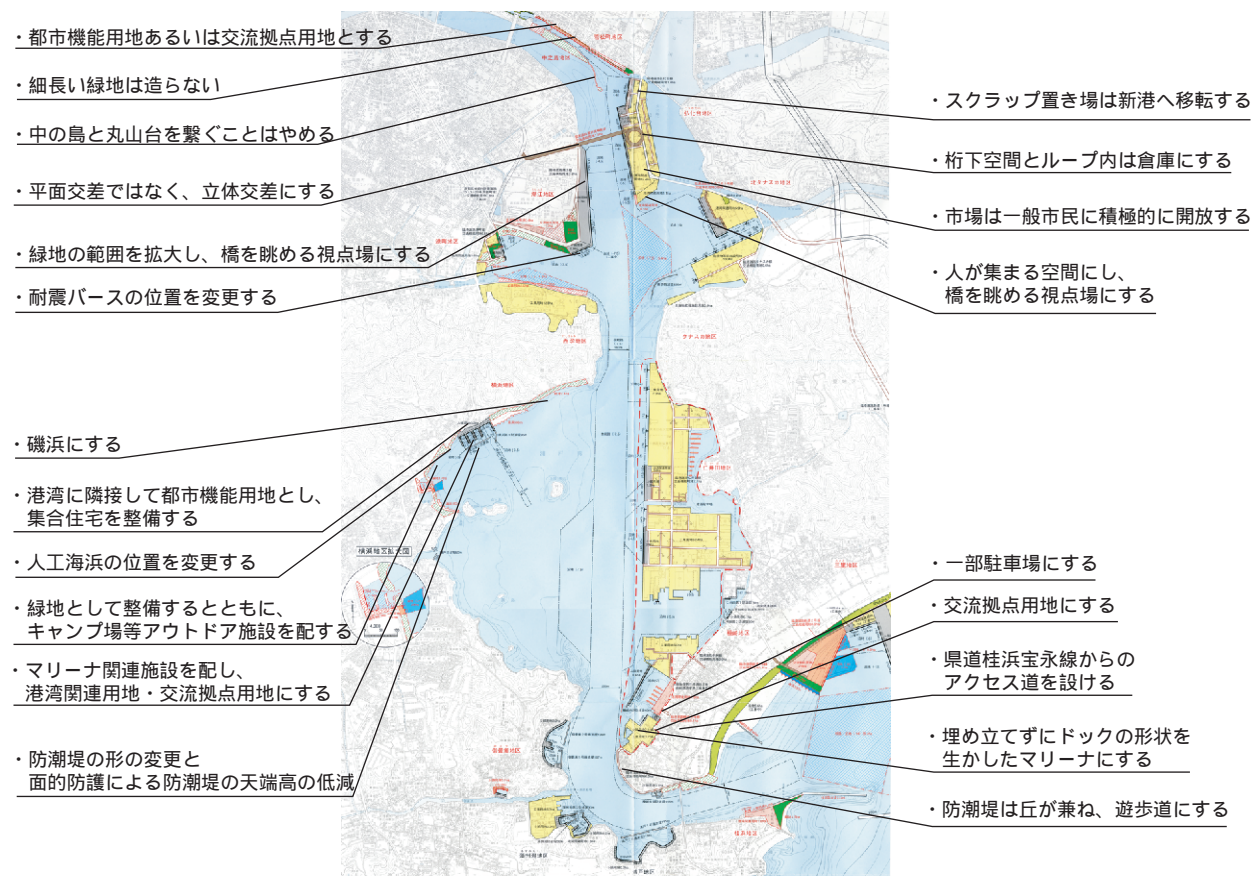


ショッピングセンター

4. 港湾計画に対する提案

以上のようなデザインを実現するには、港湾計画を若干変更する必要がある。そこで、港湾計画に対して以下のような提案を行う。

港湾計画に対する提案



5. 今後に向けて

良好な景観の演出は、まさに次の世代への良質な社会資本の継承につながる。近年、物質的にはある程度充足をみ、これからは、より精神的な充足を求めようとする成熟社会への道を辿りつつある時代において、良好な景観の創出と保全是社会政策の重要な柱の一つとなるであろう。

国の経済情勢が停滞し、高知新港に機能移転が進みつつある今、高知市市街地に近接する浦戸湾が、人々が自然と共生し、交流が広がる水辺空間として生まれ変われば、地域活性化に役立つだろう。ひいては経済の発展にもつながるであろう。

短期間での実現は無理でも、よい計画があれば、世代を越えて伝えていける景観整備が可能であろう。

本計画とデザインではわずか6ヶ所の提案であるが、浦戸湾には見直すべきところがまだまだある。現実に進んでいるハーバーリフレッシュ計画とともに検討していく必要があると考える。